



Title	米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 一般重要案件(1)(中共の核ミサイル実験に関する米専門家発言 外務省外交史料館レファレンス番号 : H222735)
Author(s)	-
Citation	平成22年度外交記録公開(4)No.4 公開日 : 平成23年2月18日 外務省外交史料館管理番号 : A'3.0.0.7-1(240) CD・DVD番号 : H22-017
Issue Date	
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43791
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

中英の核ミサイル実験に関する

米専門家発言

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政務外官
次務次官
臣信官審長

総人電營計
係文会厚

参謀長
北東
長(中)西
北東
長北

参南旅
長松住

参英
長西東

参近
長ア

参調国米ア
二カ
参南
統ヲ
長一近

参経陪
協政技
長園
陪経

参参協
長参規

参(陸)科軍
長(陸)社專

参参内
長館外

参文文
長一

66年11月9日22時30分 発
66年11月10日13時06分 本省着

外務大臣殿 武内(大使) 総領事 臨時代理

中共の核ミサイル実験に関する米側
専門家の見解について

第3098号 暗秘(略)平 大至急(普通) LTF

防衛関係教育、研究施設視察等の目的をもつて訪米中の防衛庁アンソ防衛研究所長は7日国防省国際安全保障局極東担当次官補付HALPERIN特別補佐官(計画担当)および極東地域部長LEMONS海軍少将を訪問し(マツカネ駐在官同席)のちとして中共の核弾頭付ミサイルの発射実験に関する諸問題について意見を交わしたところ、先方の発言中重要と思われる点次の通り。

1. 中共が第4回目の核実験において核弾頭付ミサイルの発射を実施したことは意外であり、中共の核ミサイル開発進捗はよく度は従来の見とおしに比較し実験に関して1年ぐら進んでいるものと思われる。発射したミサイルはソ連のSS-2型をモデルとして開発されたものでBALLISTIC MISSILEかどうかについては未だ確認するにいたっていない。推進機関には固体ねんりようを使用したものと見られるが、これは米ソの過去の実験がえき体ねんりようから出発して固体ねんりようが発展したことからしておどろくべきことである。弾頭は20KTか

外務省

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

ら100KTまでが考えられるが、どの程度のものを破裂実験したかは推定困難であり、また核弾頭に見合った核の小型化は未完成であると思われる。

2. 今回の実験が予想に反して核弾頭付ミサイルであったため中共のこの方面における能力を高く評価する向もあるが、核とミサイルを同時に結合して実施したおらいは主として政治的な影響を無視して核不拡散条約問題やジョンソン大統領のマニラ会談出席、アジア旅行等に対するいやがらせを多分に考慮して実行されたものと考えべきで、中共の技術を過大に評価することは当を得ていない。

3. 将来の見通しとして中共がどのようなMRBMをいつまでに作戦配置につけるかを予測することは困難であるが、目下のところ2-3年以内に射程300-400マイルのミサイル発射台(たぶんMRBM)敷基を展開しようものとしている。

4. 中共の核弾頭付ミサイルの実験成功がベトナム戦に及ぼす影響を与えるかとの点に対しては心理的に共産側の士気を高めることはありうるが、ベトナム作戦全般にはなんらの作用もおよぼさないし、また現段階として共産側がミサイルの使用をうんぬんして作戦上の効果を求めることはまず考えられない。また米国の核よく制力については現在の態勢で十分であり、対有人機、ミサイル防衛戦備

外務省

秘

注意

1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
2. 本電の主管変更その他については検閲所に連絡ありたい。

電信写

についても既定計画でなんら支障はない。オキナワ基地への特別な措置も必要がなくCONVENTIONALな前進基地としての同基地の重要性にも変化はない。

5. 中共が保有しているソ連製G型せん水艦と今回のミサイル実験との関係について種々推測が行なわれているが、せん水艦にミサイルをとう載することは高度の技術を要し、また陸上発射基地に比較して多額の経費を要するので、その信ぴょう性は疑わしい。

(3)

3.